

大学の教育研究上の目的に関すること

建学の精神

本学園は昭和 13 年の創設以来職業教育を第一目標とし、職業教育を通じて真の学問の道を授けようと努力している。惟うに真の学問とは言うまでもなく知・情・意を円満にして而も高度に発展せしむることである。従って学問と徳性とは別々に考えるものでなく不離一体の関係にある。徳性の涵養を離れた学問はなく、学問とはあくまでも、知・情・意の総合的体得に外ならない。

換言すれば学問とは信の一字につきる。信は真に通じ「かの天に斗あるが如く人は信を常とすべし」の古語にある通り、天空の道しるべは斗である。即ち星であるが如く人間生活の道標は実に信の一字に要約されている。

こうした意味に於て、本学園訓の三カ条たる報恩感謝、常識涵養、実践躬行の終局的発展は真の学問追究を意味しているのである。

創立者の建学の精神はこうした意味の学問を通じて北海道総合開発の一端として地域教育の開拓に寄与し、男子も女子も一定の職業教育を受け、立派な専門知識を持つことそれ自身が常識涵養の範疇に包括され、飽くまでも地域社会に貢献し得るような人材の養成にある。

学園訓

「報恩感謝」

四恩即ち、神仏の恩、父母の恩、師の恩、社会の恩に感謝しながら日常生活をすることこそ人間の幸福と言えよう。これを体得することは家庭教育の中心であり、仁の行ないであり、情の世界であり、真実の人生はここから生まれる。誠に自己の真の姿を映す鏡の精神である。

「常識涵養」

常識とは健康なる判断力である。正邪、善悪の判断をわきまえて行動しさえすれば人間生活は悔いることはない。それには知識が前提となる。世の中の進歩と共に一定の知識を身につけなければ正確な判断をすることが不可能となる。学校教育の目的もここにある。円満なる人格の持主となる璽の精神である。

「実践躬行」

人間は一定の職業を持って社会生活をしなければならない。自ら実際に践み行なわなければならない。依頼心は禁物である。そのためには大いなる勇気を要し、堅固な意志の強さがなければならない。他人に迷惑をかけず、自律の生活をする姿こそ貴賤の差なく美しいものである。社会教育の真髄はここにあり、この道徳的良心こそ身を持する剣の精神であろう。

教育理念

本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、深く専門の学芸を教授研究し職業又は實際生活に必要な能力を育成することを主な目的とし、学園訓 3 条「報恩感謝」「常識涵養」「実践躬行」を具体的信条とし、知・情・意の円満にして高度に発達した人格を有し、人類社会の福祉に貢献しうる職業人を養成することを使命とする。

教育目標

1. 南北海道では唯一、食物栄養学科と保育学科を擁する短期大学として、教養豊かな人間性の育成を図るため、正課授業のカリキュラムならびに課外活動支援の充実を図る。
2. 「食と健康、幼児教育と保育」に関する体系的な専門教育を施し、関連する諸資格を取得させるため、きめ細かな授業の展開と指導を行う。

各学科の教育目的と教育目標

食物栄養学科

（教育目的）

幅広い能力と技能を身に付けた、新しい時代の栄養士を養成する。

（教育目標）

以下の人材を養成することが、食物栄養学科の教育目標である。

1. 食を通して、人の健康の保持増進のために活躍できる豊かな人間性を身に付けた人材
2. ライフスタイルに応じた質の高い栄養指導ができる確かな専門性を身に付けた人材
3. 生活環境や食文化を通じて、地域社会への貢献を考えることができる人材

保育学科

（教育目的）

子育ての分野から地域社会の豊かさに貢献できる、保育士・幼稚園教諭を養成する。

（教育目標）

以下の人材を養成することが、保育学科の教育目標である。

1. 子供の利益を尊重し、人として尊敬される豊かな人間性を身に付けた人材
2. 子供の発達や心の動きに合わせた保育と保護者に対する相談支援ができる確かな専門性を身に付けた人材
3. 子育ての環境について、地域と食育を関連付けて考えることができる人材